

筑波医療科学

Tsukuba Journal of Medical Science

On-Line Journal

URL <http://www.md.tsukuba.ac.jp/public/cnmt/Medtec/journal.htm>

TJMS 2013; 9(3): 5-10

平成 25 年度 筑波大学医学群医療科学類

オープンキャンパス特集号



筑波大学 医学群 医療科学類
平成25年度 受験生のための筑波大学説明会

下記の日程にて標記説明会を開催いたします。本説明会は、**事前登録制**とさせていただきます。詳しくは、HP：<http://www.tsukuba.ac.jp/admission/opencampus/index.html>をご覧ください。多数のご参加をお待ちしています。

【日時】
8月25日(日)
10:00 ~ 16:00
(受付時間
9:00 ~ 10:00)

【場所】
医学臨床講義室
(HP)
http://www.tsukuba.ac.jp/access/map_west.html
をご覧ください

【プログラム】

| (午前の部) | (午後の部) |
|-------------------|------------------------------------|
| 10:00 ~ 11:10 | 12:30 ~ 13:40 |
| ・学類長挨拶 | 在学学生シンポジウム (学類生、院生：修士・博士、病院従事者) |
| ・カリキュラムについて | 13:40 ~ 14:00 |
| ・国際医療科学専攻について | 研究室紹介 |
| ・進路・進学について | 14:00 ~ 16:30 |
| ・入学試験について | ・研究室ツアー |
| ・質疑応答 | ・受験・学生生活相談と懇談会 |
| 11:30 ~ 12:30 | |
| 昼食・休憩 (大学紹介ビデオ上映) | |

<お問い合わせ先>

〒305-8575 茨城県つくば市天王台1-1-1 筑波大学 教育推進部 入試課
Tel : 029-853-6007
e-mail : gm.nyusika@un.tsukuba.ac.jp

筑波医療科学 第9巻 第3号

Tsukuba Journal of Medical Science

Volume 9, Issue 3 (2013, September)

【目次】

| | | | |
|--------|--------------------------------|------------|--------|
| 【特別企画】 | 高校生のための大学説明会 (平成25年8月25日)より | ・・・・・・・・・・ | 5 - 10 |
|--------|--------------------------------|------------|--------|

【特別企画】 高校生のための大学説明会（平成 25 年 8 月 25 日）

「実施プログラムと内容」

| 時 刻 | 実施内容 |
|-------|---|
| 9:00 | 参加受付開始 |
| 10:00 | 学類長挨拶 (有波忠雄 学類長) |
| 10:10 | カリキュラムについて (長田道夫 教授) |
| 10:30 | 国際医療科学主専攻について (森川一也 准教授) |
| 10:40 | 進路・進学について (二宮治彦 教授) |
| 10:55 | 入学試験について (磯辺智範 准教授) |
| 11:10 | 質疑応答 |
| 11:30 | 昼 食 ・大学紹介ビデオ上映 ・研究室紹介スライドの公開 |
| 12:30 | 在学生シンポジウム (15分×4名) ・菊池さん (医療科学類 4年生) ・竹村さん (修士課程) ・森さん (博士課程) ・中川さん (筑波大学附属病院検査部) |
| 13:40 | 質疑応答 |
| 14:00 | 実習室・研究室ツアー |
| 15:00 | 受験・学生生活相談と懇談会 (希望者) |
| 16:30 | 大学説明会日程終了 |

① 参加者受付開始

当日はあいにくの雨にもかかわらず、大勢の方にお集まりいただくことができました。



(参加受付)

今回の説明会では筑波大学医療科学類の入学案内パンフレット、入学者選抜要綱、医療科学類 Q&A、など重要情報満載の資料を、大学の理念である“IMAGINE THE FUTURE”が刻まれたバッグに入れて配布しました。



(配布資料)

② 説明会（教員より）

開会にあたり、有波学類長より挨拶をいただき、カリキュラムについて長田先生、国際医療科学専攻について森川先生、進路・進学について二宮先生、入学試験について磯辺先生より説明があり

ました。



(教員による説明)



(説明会風景)

③ 在学生シンポジウム

午後からは、医療科学類の在学生および卒業後多方面で活躍する卒業生によるシンポジウムを行いました。詳細については、下記の「在学生・卒業生によるシンポジウム」をご覧ください。

④ 実習室・研究室ツアー

在学生シンポジウム終了後、希望者を募り医療科学類の実習室・研究室ツアーを実施しました。実習室ツアーでは、「分析系実習室 → サテライト室 → 病原系実習室 → 形態系実習室 → 115 教室 → 生理系実習室」の順に施設を回りました。



(実習室ツアー)

研究室ツアーでは、(1) 感染生物学研究室、(2) 病原微生物研究室、(3) 免疫制御医学研究室の協力を得て、研究に関する説明や模擬実験などが実施されました。



(研究室ツアー)

⑤ 受験・学生生活相談と懇談会

実習室・研究室ツアーと並行し、受験生のための試験や学生生活の相談コーナーを設置しました。相談員として、医療科学類教員、在学生、卒業生がそれぞれブースに常駐して対応しました。相談コーナーには受験生だけでなく保護者の方も多数のご参加いただきました。



(教員による相談コーナー)



(在学生・卒業生による相談コーナー)

「在学生・卒業生によるシンポジウム」

1. 菊地愛美（4年次在学）



（講演要旨）

私は高校時代、生物の授業が好き、大学で資格を取得したい、将来は直接的に人の役に立つ職業に就きたい、といった理由から医療系の学部への進学を志し、中でも臨床検査技師という職業に興味をもった。

では、全国に数ある臨床検査技師養成校の中で、なぜ筑波大学の医療科学類を選択したのか。その理由としては、国公立大学であること、実家からの距離、そして自分の偏差値に見合っているといった進学条件が揃っていたこともあるが、一番の理由は、医療科学類の教育目標、すなわち医療科学類が育てようとしている人物像に強く惹かれたからである。その教育目標を読んだ時、私は筑波大学の医療科学類に入学すれば、臨床検査技師として高度な医療技術を身に付けられるだけでなく、チーム医療の大切さも学ぶことができ、そういった中で医療人としての豊かな人間性を形成することができる。且つ、臨床検査技師だけでなく研究

者としての道も開ける。と解釈し、私も将来こういう力を持った人間になりたい。と純粋に思った。

実際に医療科学類に入学してからの学生生活は、講義、実習、サークル活動、そして現在は卒業研究にと、毎日忙しいながらも充実しており、その中で私は臨床検査技師としての医療技術習得にとどまらず、広く且つ専門的に医科学を学んできた。

そして医療科学類で学んだ今、私は医科学研究に興味を持ち、大学院進学を志している。私は、大学院進学という進路選択をとったが、医療科学類の約半数は病院就職や企業就職、あるいは警察官を志望しており、その進路選択は多岐にわたる。臨床検査技師と研究者、その両方の魅力を教えてくれる医療科学類だからこそ、このような幅広い進路選択が生まれるのだと私は考える。

将来、臨床検査技師または医科学系の研究者を志している人。あるいは、ただ漠然と医療に興味・関心がある人。医療科学類は、これら全員の人たちが満足できる学類である。

2. 竹村 彩 （平成 23 年度卒業・筑波大学大学院
院ヒューマンバイオロジー学位プログラム在学）
（出身：山形県立山形東高等学校）



（講演要旨）

皆さんはどういった目的をもって大学説明会へ参加しているのでしょうか。知り合いの現役受験生 K 君に聞いたところ、「大学の実際の雰囲気を知りたいというのが一番。それと、どうしてその大学に決めたのか学生と話がしたい。」という答えが返ってきました。そこで、私が大学を選んだ理由や、大学生になったらどんなことが待ち受けているのかを、経験を元にお伝えできればと思います。

入学前の私の目標は生命現象の疑問を扱う研究者になることでした。今でもその考えは変わらず、生命の本質は何か、この問いに向き合っていたいと思っています。しかしながら当時は、親が心臓ペースメーカー装着者であることなどから、医療について学びたいとも考えるようになりました。さらに、陸上競技でインターハイや国体に出場していたこともあり、競技を続けたいという想いもありました。当時の私は本当に欲張りだったと思

います。やりたいことをやらなかったら絶対に後悔すると、この3つともできるような環境を探していました。本学類は、臨床検査技師の視点から医療を学べるだけではなく、研究実践能力を重点的に習得する主専攻が設立するほど研究者育成にも力を入れてきました。さらに、スポーツ関係者なら誰もが知っている筑波大学です。ここで、思い切り陸上に打ち込みながら、面白い生命現象を扱いながらも、実際の応用の場（医療の現場）も知っている研究者を目指そうと決意しました。

入学後は、まずは少しでも研究の雰囲気をつかもうと、1年生のころから微生物学研究室に出入りし、研究発表会などに積極的に参加していました。外国人学生も在籍していたため、卒業研究時には英語で議論を行うなど、国際的な感覚を身につけることができました。また、病院実習も経験し、検査技術・診断技術の現状を学びました。一方で、陸上競技部にも所属し、県大会での連続優勝やインカレなどにも出場させていただいたり、充実した競技生活も送ることが出来ました。これら一つ一つの経験ごとに、自分の成長を感じています。

いろいろなことをしてきた私ですが、現在は5年制大学院に進学し研究第一の生活を送っています。最近では、イタリアでの国際学会に参加したり、フランスのボルドー第二大学への短期留学の準備をしたりと、めまぐるしい毎日を過ごしています。学部時代に培った国際的感覚と、医学の知識・経験と、体力を駆使し、夢へ向かって挑戦していきたいです。

このように、医療科学類の特色は、分子生物学から臨床医学まで学べる学類であり、大学の特色

である国際性を強く反映している学類であり、多岐にわたる趣味を持つ学類であることだと思います。普通の検査技師になるなんてもったいない！一緒に自分の可能性に挑戦してみませんか。

3. 森 幸太郎 (平成 21 年度卒業・筑波大学人間総合科学研究科生命システム医学専攻在学)(出身：湘南高校)



(講演要旨)

平成 21 年度卒業生の森と申します。私は、医療科学類在学中に、ウイルス学研究室にて卒業研究をおこないました。1、2 年次の頃は授業にもめったに出席せず、基礎知識も人一倍少なかったため、卒業研究初期の頃は自分が何の研究をしているのかもよくわかっていませんでした。先生からは日々怒涛のお叱りをいただき、精神的にも体力的にも辛かったことを覚えています。しかし、少し研究結果がでてくるとだんだん楽しくなってきた、結局基礎医学研究の世界にのめりこみ、本学の修士課程であるフロンティア医科学専攻に進学しました。修士課程の間も研究を続けていくうちに、

研究・教育者というキャリアパスを歩みたいと考えるようになり、現在は本学の博士課程である生命システム医学専攻に在籍しています。

医療科学類の学生のキャリアパスは、臨床の現場で検査技師として働きながら研究をする方や、大学院に進学した後に企業で研究、開発業務をおこなう方、あるいは大学や研究所で研究あるいは教育に携わるなど、多岐にわたっています。しかしながら、どの道を選んだとしても第一線で働くというのはとても大変なことです。皆さんは自分の将来像がまだ固まっておらず、これから自分のキャリアパスを設定していくことと思います。残念ながら就職先のポストは有限であり、全国の、あるいは世界中の人と争奪しなければなりません。大学院生においては、研究成果が早期に得られると国や大学から経済的な援助が受けられる可能性が高まります。したがって、早期にキャリアパスを設定し、できるだけ早く実行に移すことが成功の秘訣だと思います。いろいろな方面の先輩方、先生方の話を聞き、早めにキャリアパスを設定し、自分にしっかり負荷をかけてくれる先生やスタッフさんを見つければ、自分の将来像を必ず実現させられると思います。妥協せずがんばってください。

| 筑波医療科学 第9巻 第3号 | |
|----------------|---|
| 編集 | 筑波医療科学 編集委員会 二宮治彦 有波忠雄 |
| 発行所 | 筑波大学 医学群 医療科学類 〒305-8575 茨城県つくば市天王台 1-1-1 |
| 発行日 | 2013 年 9 月 30 日 |